



創立140年 鳳祭

ニュース専修

専修大学ホームページ

https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
☎101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ② エクステンションセンター 公務員試験合格者が報告……………
- ③ 図書館企画展「書道1展」かな紙製作者の講演も……………
- ④ 学生就職アドバイザー 就活のコツを3年次生に伝授……………
- ⑤ 創立140年鳳祭写真特集 生田キャンパスに笑顔咲く……………
- ⑥ 校友が製作に協力 映画「くらやみ祭の小川さん」……………
- ⑦ 石巻専修大学 教員採用試験に人間教育学科3人が合格……………

台風・豪雨で被災された皆様へ
被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。
専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるように支援を行っております。下記の担当窓口にご相談ください。

- ① 一部学生 生田学生生活課 ☎044・911・1267
- ② 一部学生 生田学生生活課 ☎03・3265・6824
- ③ 二部学生 二部事務課 ☎03・3265・8359
- ④ 大学院生 生田大学院事務課 ☎044・911・1271
- ⑤ 大学院生 神田大学院事務課 ☎03・3265・6568
- ⑥ 法科大学院生 法科大学院事務課 ☎03・3265・6891

秋の空に 歓声響く

「創立140年専修大学鳳祭」が10月31日から11月3日まで開催された。会期中、ほぼ晴天に恵まれ、会場の生田キャンパスは、学生、卒業生、ご父母や近隣住民の方々にぎわい、学生たちの発表やパフォーマンスを楽しんだ。

今回のメインテーマは「始(はじめ)ー140年の軌跡、想いと共に」。節目の年に新たな一歩を踏み出すという意気込みが掲げられた。4号館前の特設ステージでは、音楽グループのライブが行われ、歓声や拍手が鳴り響いた。10号館前でも模擬店などが並び、全国各地に伝わる郷土料理や留学生によるアジア料理、エスニック料理も登場した。

各教室ではサークル、ゼミナールの展示会や発表会、音楽イベントが開かれたほか、タレントのトークショーも。期間中、卒業生対象のホームカミングデーや就職イベントも行われた。



学生の笑顔がはじける生田キャンパス

ホームカミングデー レジェンドが登場

卓球 松崎キミ代さん



専大卒業生が旧交を温め、在学生と交流する「ホームカミングデー」が鳳祭開催中の11月2日、生田キャンパスで催され、約500人の卒業生が訪れた。

講演会には本学が誇る往年の名選手二人が登場。ラグビー部監督の村田互さん(平2文)と卓球の元世界チャンピオン・松崎キミ代さん(現姓・栗本、昭36商経)が体験を語った。

村田さんは、専大時代に関東大学ラグビーリーグ戦で優勝、社会人では東芝府中で日本選手権3連覇、ワールドカップ(W杯)3大会連続出場など数々の輝かしい戦績を持つ。ラグビーボールを持って登場した村田さんは、聴衆を相手にパスを披露し会場を沸かせた。瞬発力とスピードを持ち味にした攻撃的なスクラムハーフとして、「決して諦めない」積極的な姿勢で切り開いてきたラグビー人生を語った。この日の夜がW杯の決勝戦。初の8強となった日本チームの活躍ぶりには「日本がタックルするたびに目頭が熱くなった」と選手の姿に現役時代を重ねた。

松崎さんは、五輪に卓球種目がなかった1950年代から60年代にかけて日本卓球界の黄金時代を築いた一人。卓球との出会い、父親の反対を押し切って専大に進み厳しい練習に励んだ学生時代、国際大会での活躍を振り返った。

61年の世界卓球選手権北京大会。女子シングルスで、前回チャンピオンの松崎さんは優勝候補の筆頭だったが3位に終わった。負けても相手の選手とこやかに握手した松崎さんの姿を見て、当時の周恩来首相が「あなたが一番だ」とたたえた。松崎さんは日中友好の使者と呼ばれた。

「卓球に一生懸命取り組んできた。幸運に恵まれた。松崎さんは終始笑顔で聴衆に語りかけた。

ホームカミングデーに初めて参加した田中将士さん(昭60経営)は「在学中はゼミの先生との交流が一番の思い出。講演を聞いて体育会の学生たちを応援したい気持ちになった。来年も参加したい」と話した。

ラグビー 村田互さん



村田さんは、専大時代に関東大学ラグビーリーグ戦で優勝、社会人では東芝府中で日本選手権3連覇、ワールドカップ(W杯)3大会連続出場など数々の輝かしい戦績を持つ。ラグビーボールを持って登場した村田さんは、聴衆を相手にパスを披露し会場を沸かせた。瞬発力とスピードを持ち味にした攻撃的なスクラムハーフとして、「決して諦めない」積極的な姿勢で切り開いてきたラグビー人生を語った。この日の夜がW杯の決勝戦。初の8強となった日本チームの活躍ぶりには「日本がタックルするたびに目頭が熱くなった」と選手の姿に現役時代を重ねた。

松崎さんは、五輪に卓球種目がなかった1950年代から60年代にかけて日本卓球界の黄金時代を築いた一人。卓球との出会い、父親の反対を押し切って専大に進み厳しい練習に励んだ学生時代、国際大会での活躍を振り返った。

61年の世界卓球選手権北京大会。女子シングルスで、前回チャンピオンの松崎さんは優勝候補の筆頭だったが3位に終わった。負けても相手の選手とこやかに握手した松崎さんの姿を見て、当時の周恩来首相が「あなたが一番だ」とたたえた。松崎さんは日中友好の使者と呼ばれた。

「卓球に一生懸命取り組んできた。幸運に恵まれた。松崎さんは終始笑顔で聴衆に語りかけた。

ホームカミングデーに初めて参加した田中将士さん(昭60経営)は「在学中はゼミの先生との交流が一番の思い出。講演を聞いて体育会の学生たちを応援したい気持ちになった。来年も参加したい」と話した。

2020年度

新設 国際コミュニケーション学部

再編 経済学部 移転 商学部

6〜8面で
特色紹介